

0 150 cm 100 200

SEKISUI JUSHI

サ
モ
ノ
ケ
イ
ツ
の
系
同
伊
呂
波
の
物
語
三
巻

545
サ
6

545
サ
6



狭衣集巻

イキテラクキニ

一源院

御母后

わが御母后の御一巻が
かたがた御中二巻の御

後一系院

ゴ
テラクキニ

御母后院

大政官女一巻の御

書あり。御中二巻の
御位。御中

形宮

イヌミヤ
御母后の御一巻が御中二巻の御

イッホシノミヤ

一宮

御母曰 清瀧院皇太后之御孫也
御成あり 清瀧院皇太后之御孫也
御孫の御成あり 清瀧院皇太后之御孫也
御孫の御成あり 清瀧院皇太后之御孫也
御孫の御成あり 清瀧院皇太后之御孫也

清瀧院

御母曰
一宮の御成あり 清瀧院皇太后之御孫也
御孫の御成あり 清瀧院皇太后之御孫也
御孫の御成あり 清瀧院皇太后之御孫也
御孫の御成あり 清瀧院皇太后之御孫也

春宮

御母中 春宮御成あり 清瀧院皇太后之御孫也
一宮の御成あり 清瀧院皇太后之御孫也
御孫の御成あり 清瀧院皇太后之御孫也
御孫の御成あり 清瀧院皇太后之御孫也

若宮

御母曰 若宮御成あり 清瀧院皇太后之御孫也
二宮の御成あり 清瀧院皇太后之御孫也
御孫の御成あり 清瀧院皇太后之御孫也
御孫の御成あり 清瀧院皇太后之御孫也
御孫の御成あり 清瀧院皇太后之御孫也

女院

御母曰 女院御成あり 清瀧院皇太后之御孫也
一宮の御成あり 清瀧院皇太后之御孫也
御孫の御成あり 清瀧院皇太后之御孫也
御孫の御成あり 清瀧院皇太后之御孫也
御孫の御成あり 清瀧院皇太后之御孫也

好文とて一語名あり

入道宮 母曰

女ニも地津行はるは家ありては孫
天孫も申子らるる孫一は月あゝおた
の男れ代は孫らんと申すの流り孫た
孫成りて言の孫もあひては孫も
入道は流りて言の孫もあひては孫も
の孫もあひては孫もあひては孫も
あひては孫もあひては孫もあひては孫も

養一孫一は言の孫もあひては孫も
あひては孫もあひては孫もあひては孫も
つらとて言の孫もあひては孫も
て知る言の孫もあひては孫も

斎宮

母曰三卷は孫もあひては孫も
あひては孫もあひては孫もあひては孫も

堀河大宮

一葉流儀流儀のひらの孫もあひては孫も
あひては孫もあひては孫もあひては孫も

今上

今上とて言の孫もあひては孫も
あひては孫もあひては孫もあひては孫も

一巻の中は二巻の中は三巻の中は四巻の中は

廿月五日第何多し強し小者者事子天の路
路す夜中門女二家路りんとの路一外
路よ一系流一系流よ二巻路りんとの路
さわかさささささささ二巻三巻四巻
普賢并ありる道行三巻はくは路あり
見せし路一を何れ大の路あり感路
回巻よ中家の昔よ一よ二中巻よ路あり

^{イキノミヤ} 中宮 中中一巻或り乃の路
一巻よ一巻よ一巻よ一巻よ一巻よ一巻

^{イッホシノミヤ} 中宮 中中一巻或り乃の路

一巻の腹の由七月とく一りく道に

母事どもんま一よ二の路あり
とれら一と常路一の路ありしあり
路百日とく一巻流一ありあは路あり
一と路あり一と路あり一と路あり
ゆきありたは路あり一と路あり

^{キラ} 中宮 中中一巻或り乃の路
流儀流儀一巻の路あり一巻あり
中宮の路あり一巻の路あり一巻あり

^{イニ} ^{エヌ} ^{キミ} 今中君 中中一巻流儀の腹八巻中納言

一巻を流るるにじつとて流るるがつま
たよおぼやうとなまやせし流るる一た
らふ心よ入流るる一は二流るる位の時
三巻よりの心一は流るる位の時
宰相も物もひらきえつたよおぼやう
思あつて流るる一は流るる位の時
らむかき流るる一は流るる位の時
吉野川あつたよおぼやう一は流るる

光帝

式部少輔

かき流るる一巻
なまや

後式部卿

かき流るる一巻
なまや

宰相中將

三巻よりの心一は流るる位の時
三位中將も物もひらきえつたよおぼやう

男子

今流るる一は流るる位の時
なまや

女官

なまや流るる位の時
なまや

坊門の上

堀川のねらうは女方がぬく中一宮は
うらなひもくは女がよめややくくん
かなしなまふ

徳吉ノミヤ
徳氏宮 御母の御名宛

由と息よもれ給へかへ又門をたれ給ふ
母の息ももつらうとて女給く堀川のねら
の上女まの由たうたはるう御子あり
ひらうれかいつと給ふと女あつたはな
くもふらふは御はねよあり一丸と
つたうよな女給くは御とさうり給
そなたとふんも女まもつらうと
かほ女給くは御女のみ院より
あや給くはさうりあつらうと巻

奇遊よあら給ふ

ホリカハノコトノノラヒ

堀川大之上

何巻よの皇太后まもり先帝
の由味は勢女まもつたはるよと給
下位の由後給くはさうり狭衣大將の御

サガノサシクワタイミヤクワ
院藏院皇太后ま

皇太后まもつたはるよ海女あまの由名
のあまもつらうとわの先帝は御い
とあや御女まもつたはるよ

ナカノセウキョウ

○中務宮

少将 シヤウシヤウ 大膳出子なる孫——五日の夜、
の御神さの御一人

姫君 ヒメキミ

このまゝあると大なる御心遣ひ
御志の御あらん大膳出子御志の御あらん
かき孫一人御心遣ひの御あらん

式部卿 シキブキョウ 宮上

御心遣ひの御あらん御志の御あらん
は御心遣ひの御あらん御志の御あらん

ヨカハノソラツ

○横川備前

かニまゝ御心遣ひの御あらん
乃御心遣ひの御あらん

皇太后 ミコノタマシ 御心遣ひの御あらん

大政大臣 オホシラサキ

後一宮御心遣ひの御あらん
二宮御心遣ひの御あらん

一宮御心遣ひの御あらん

御心遣ひの御あらん
御心遣ひの御あらん

トヲ尹ノラ五
東沈上

河川を長坂方と申すやまひて
は一巻にひらきんしひん神

サダキニ
おたる

この巻にいつの大納言あり一巻ニ

大納言

持中納言五月五日大老申子持中納言被
現色ひらき人三巻一持中納言とみんを
一おまをんよわかぬ中納言と申すかた
ひらき一おまをんよわかぬ中納言と申すかた
一巻よおまをんよわかぬ中納言と申すかた
のよひらき人三巻一持中納言とみんを
おまをんよわかぬ中納言と申すかた

少将

三巻に賀茂のつくひよまひし人三巻と
かへたなりとある

姫君

三巻に母上兵部とあるとある
のまひらき

サダキニ
た大将

宰相中将

大老申子持中納言と申すかた

宣耀殿女侍

後一巻沈上とあるとある

トキハノニヨラ

常盤元

りての徳地の中納言とて
あつたをきこひてあつたを
らるゝ能き事一やゝあつた
みこら

ユサトニヨラ 一常盤の女院よりあつた
小宰相 大將時々の後人としてあつた

わつた事としてあつた

キクゼシノカミヤタカタ

後前守少方

あつた事としてあつた

ケニキミノハ

今形君母

一徳地よりあつた

徳地の後一あつた事としてあつた
又なういひわらうあつた事としてあつた

別当

一あつた事としてあつた
あつた事としてあつた

少将

あつた事としてあつた
あつた事としてあつた

大前乳母

あつた事としてあつた

印部太輔道成

あつた事としてあつた
あつた事としてあつた

三千 五

道季

道季の歌

常陸守の方

中納言内侍

内侍乳母

中納言君の歌

内侍乳母

内侍乳母の歌

中納言君の歌

ゆゑかきし人

出雲の乳母

入道乃の歌

少将の歌

少将の歌

少将の歌

かきオコシノメイト

大納言乳母 源氏より由緒しるし

源氏よりしるし
とてしるし
のきりしるし

宇佐

源氏の朝臣

源氏よりしるし

二つは侍部

地川より由緒しるし

源氏の夜君

イヨノサミ

伊予守

天より由緒しるし

源氏よりしるし

中納言

源氏より由緒しるし

源氏よりしるし
源氏よりしるし
源氏よりしるし

中将

源氏より由緒しるし

侍従

源氏より由緒しるし

源氏より由緒しるし

入心の子は一人の子

宰相

中務家の形もあつて一巻はあ

めいさうみくしあまよひし人三巻

のういさみのあまよひし人

中務君

あまの母まはあまみくらぬ

あまのあまよひし人

少将令婦

あまの女房あまやく

あまのあまよひし人

中将君

あまのあまよひし人

中納言伏

あまのあまよひし人

長門守

あまのあまよひし人

大納言

あまのあまよひし人

春日守

あまのあまよひし人

ねく あまのあまよひし人

タユク
右捕 あすか井乃女房

かづねうえ
感懐師龍島井乃女房
法師らるる龍島井乃女房

のまゝしんじん也

サエモシノゴジノスチ
左衛門持虎 右女一あましの女

あまのしんじん一あまのしんじん

チラモシラキニ
中持君 一あまのしんじん一あまのしんじん

かみゆきしんじん一あまのしんじん

しんじん

サキノサキノサキ
前女院の宣旨 海女のつらあまの
しんじん一あまのしんじん

ニョバツタツク
女別当せん一海女の女房三女

サイニシラクスイト
宰相乳母 日くしんじん一あまのしんじん

ヤシノシラクス
山僧部 ながのしんじん一あまのしんじん

あまのしんじん一あまのしんじん
あまのしんじん一あまのしんじん
あまのしんじん一あまのしんじん

クランド
御入 四巻の信長が御入の御入
御入の御入

まはりの使 昔の御入の御入

ホリカノ井シ
堀川院の御入 御入の御入

室町御入の御入

子乳母 御入の御入

宰相の御入

御入の御入

人下巻の御入

王代五十延暦三年奈良^{ナラ}遷都長世^{ナガセ}
次弟在^シ京首尾也

桓武天皇

平城天皇 奈^ナ 御入

真如親王

阿保親王

行平 三位中納言^{ミナブキマテ}

女 貞教母

守平 丸兵衛佐

仲平

大い音人

午古

午里

業平

女のり

丸馬佐後四位下

栲梁

滋春

呼尚

純徳母女宮
高階家諸馬子

元方

時春

侍従

暁サ成カ天ノ皇

仁ニ明ミ天テ皇

深草帝

基モ陰カ親グ王

垣ツ康ヤ親ス王

元モ康カ親ス王

融ト河カ原ハ大シ長

昂ホ中ノ納リ言

大納言
定致舉順

文德天皇
田村帝母五条

常康親王
雲林院

光孝天皇
仁和寺内小松帝

人康親王
山階禪師
西院清門依遠都西山納骨

淳和天皇
故也

崇子内親王
兼和十五年五月十五日薨
母橘船子正四上清野女

賀陽親王

良岑
安世
正三位大納言

宗貞
少将
通昭

良月
素性

倭豆内親王
葉平母
貞觀三年九月薨
藤南子從臣之教女

良實
三位中納言賜小野性

良家
出羽郡子

小野小町
又常陸女

惟高親王
母藤原后号水尾山山城水尾

清和天皇
河内道云加藤山号其取

能有
贈源氏姓近衛院

祐子内親王

陽成天皇 ヤウセイ
母三條后

貞國親王 サダクニ

貞保親王 サダヤス

貞元親王 サダモト

貞教親王 サダカス
母行平女原女先祖也
延喜十三卷 四十二

元良親王 モトヨシ

冬嗣 フユノリ
困院九大臣藤足六世孫也
秋把友贈太政大臣

長良 チカヨシ

國經 クニツネ
正二位大納言

基經 モトツネ
良房為子

二条后 ニノヤ
高子清和后陽成母清和九歲之時
此人十七歲亡

良房 ヨシノブ
忠仁公孫太政大臣

基經 モトツネ
昭宣子長良口子岡白

保友后 タモトヨシ
明子文德后清和母

良相 ヨシスガ
西三條右大臣

常行 ツネユキ
右大臣

多賀後子 タカキコ
文德女御

順子 スミコ
仁明后文德母五条后

時平 トキヘ 危大良

仲平 ナカヘ 危大良

忠平 チウヘ 貞仁云

温子 ニホコ 宇多后号七条后

富子 トミコ 九

敏行 トシユキ

名虎 ナト

有常 アリツネ

惟高叔父也 ニタカウラチ

女

静子 シヤラシ

九州大學圖書印

